

大東市埋蔵文化財発掘調査概報

1989年度

1990年3月

大東市教育委員会

は し が き

JR片町線が学研都市線と呼ばれるようになり、更に沿線上に新駅がいくつつくられて、快速電車が走るようになると、かつての大阪の鬼門にあたるといわれ、開発が遅れていた沿線は、一挙に脚光をあびることとなった。

大東市域も、今では完全な副都心としての様相を呈するようになりました。また土地価格の高騰は著しく、市内の各所には、今まで数少ない高層ビルが立ちならぶようになりました。そのため緊急発掘調査は、その規模の大小にかかわらず続出しているのが現状であります。周知の埋蔵文化財の地域においての立会、試掘調査はもとより、今まで知られなかった新規の遺跡の発見があいついでいます。

この様な状況の中では、ともかく小まめに歩くのが大切です。それと土地にまつわる伝承や古老の話、旧小字名の地道な検討とその積み重ねが、文化財の保護行政の本筋であるものと信じています。

その意味で、今回の市内各遺跡及びその周辺地域での調査は、文化財保護には欠くことができなく、今後も小まめに、かつ気ながにつみかさねていきたいと思えます。そのため文化財が、あくまでも、国民のかけがえのない財産であることを、多くの市民にご理解ねがい、同時に関係各位には、今後共なお一層のご支援をお願い申し上げる所です。

今回の市内遺跡の調査に際しまして、多くの方々のご協力とご助力に心よりお礼申し上げます。

平成2年3月

大東市教育委員会

例 言

1. 本書は、大東市教育委員会が平成元年度国庫補助事業として実施した、大東市域各遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、大東市教育委員会技師黒田淳を担当者として、平成元年4月1日に開始し、平成2年3月31日に終了した。
3. 本書の執筆、編集は、黒田が行った。
4. 調査及び整理の実施にあたっては、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表す。深沢吉隆、大山清、中村亘登、野村香枝、宮田八重子、山本芳子、吉村早苗。
5. 調査中は各土地所有者、ならびに地元関係者の方々より、懇切な御協力を頂いた。
また、有益な指導、助言を頂いた大阪府教育委員会を始め、各関係機関に対し厚く感謝の意を表す。

目 次

I 平成元年度の調査概要	1
II 寺川遺跡・寺川古墳群の調査	3
III 中垣内遺跡の調査	10
IV 野崎条里遺跡・野崎城跡の調査	13
V その他の調査	17

挿 図 目 次

第1図 寺川遺跡・寺川古墳群調査区位置図	3
第2図 トレンチ位置図 (TRK89-5)	4
第3図 トレンチNO.4盛土・表土除去後の平面図 (TRK89-5)	5
第4図 出土遺物実測図 (TRK89-5)	6
第5図 トレンチNO.1～NO.5土層断面図	7・8
第6図 トレンチ位置図 (TRK89-6)	9
第7図 土層断面図 (TRK89-6)	9
第8図 中垣内遺跡調査区位置図	10
第9図 中垣内遺跡調査区位置図	10
第10図 土層断面図 (NGT89-5)	11
第11図 トレンチ位置図 (NGT89-5)	11
第12図 トレンチ位置図 (NGT89-6)	12
第13図 土層断面図 (NGT-89-6)	12
第14図 出土遺物実測図 (NGT89-6)	12
第15図 野崎条里遺跡・野崎城跡調査区位置図	13
第16図 トレンチ位置図 (NOZ89-1)	14
第17図 土層断面図 (NOZ89-1)	14
第18図 トレンチ位置図 (NOZ89-3)	15
第19図 土層断面図 (NOZ89-3)	15
第20図 出土遺物実測図 (NOZ89-3)	16
第21図 北新町遺跡調査区位置図	17

第22図	宮谷古墳群調査区位置図	18
第23図	鍋田川遺跡調査区位置図	18
第24図	飯盛山城跡調査区位置図	19
第25図	西諸福遺跡調査区位置図	20

表 目 次

第1表	平成元年度 57条2・3届出件数月別集計	1
第2表	平成元年度 57条2・3回答・月別集計	2
第3表	遺跡別届出調査件数集計	2
第4表	寺川遺跡・寺川古墳群（TRK）調査一覧表	4
第5表	中垣内遺跡（NGT）調査一覧表	11
第6表	野崎城跡（NOZ）調査一覧表	14
第7表	北新町遺跡（KSM）調査一覧表	17
第8表	宮谷古墳群（MTN）調査一覧表	18
第9表	鍋田川遺跡（NBT）調査一覧表	19
第10表	飯盛山城跡（IMO）調査一覧表	19
第11表	西諸福遺跡（MOR）調査一覧表	20

図 版 目 次

図版一	寺川古墳群
図版二	寺川古墳群
図版三	寺川古墳群
図版四	寺川古墳群
図版五	寺川古墳群
図版六	中垣内遺跡・野崎城跡
図版七	寺川古墳群出土遺物
図版八	寺川古墳群・中垣内遺跡・野崎城跡出土遺物

I 平成元年度の調査概要

平成元年度中（数字はすべて平成2年3月15日現在のもの）に文化財保護法57条2及び3に基づく発掘届・発掘通知は、70件受け付けている。これは既に、昨年度の67件を越えている。そのうち一般民間事業は66件を数え、全体の94%という高い割合を占めている。

届出・通知の土木工事内容から、事前に発掘調査を必要としたものは24件を数えている。このうち調査を実施したものは23件であった。公共事業に伴うものは4件、残り19件は民間開発事業に係わるものが占めた。

遺跡別にみると、昨年同様、包蔵地面積の広い中垣内遺跡、府営住宅建替工事に伴い、周辺での公共事業や民間による開発が増加している、北新町遺跡が目立っている。

周知の埋蔵文化財包蔵地以外の地域（本市が定めるところの遺跡の周辺地域）でも事前の試掘調査を実施して、遺跡の発見に努めているが、今年度は17件の試掘調査を実施した結果、3件で埋蔵文化財の存在を確認している。そのうちの2件が、新規に発見された野崎条里遺跡である。また、西諸福遺跡の周辺からは、古墳時代の遺物包含層の存在が確認され、遺跡の範囲を拡大する措置をとった。

国庫補助事業の対象である個人専用住宅建設に伴う発掘調査の成果は、以下に報告するとおりである。他の民間の開発事業に伴う発掘調査に比較すれば、規模は小さいがそれなりの成果を得ることができたと思っている。その他の注目すべき発掘調査は、古墳時代前期の集落跡とともに、竪穴式石室の石材や割り船が出土した北新町遺跡（府営住宅建替に

原因	平元 4	5	6	7	8	9	10	11	12	平2 1	2	3	計
市関係公共事業	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
国・府関係公共事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関西電力	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
その他民間事業	8	6	3	3	4	8	6	3	8	3	9	5	66
計	8	6	3	3	4	9	8	3	8	4	9	5	70

第2表 平成元年度 57条2・3回答・月別集計

平成2年
3月15日現在

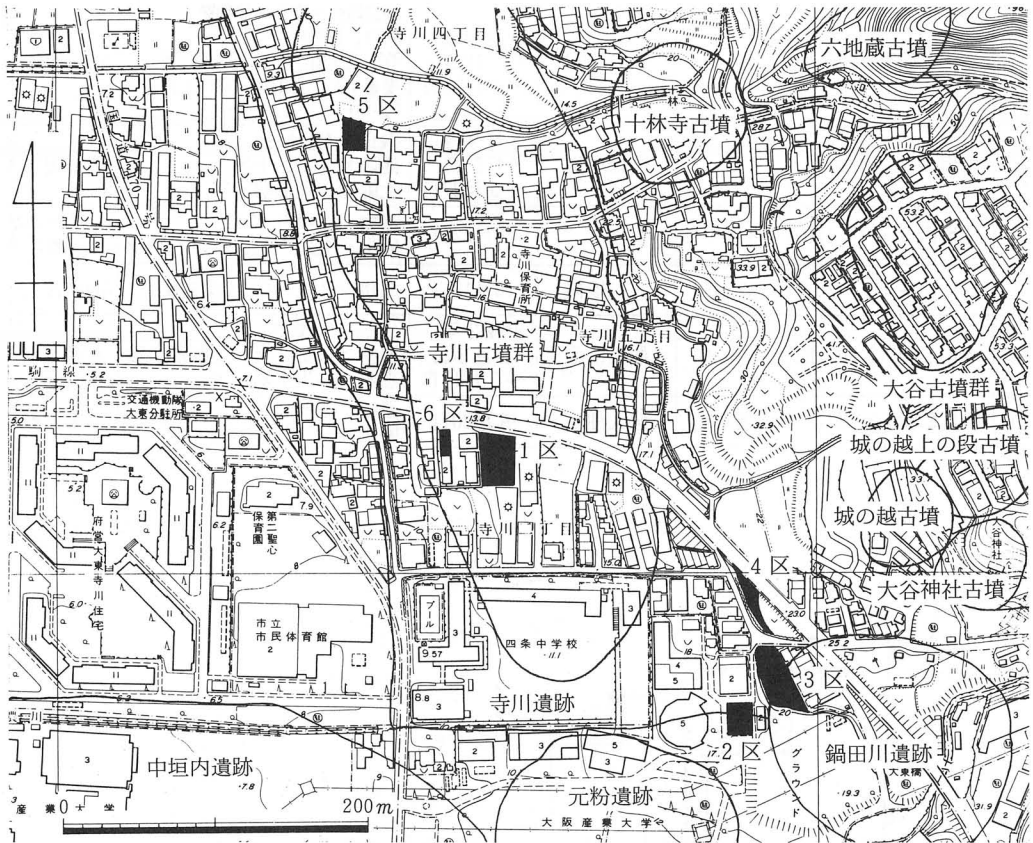
回答区分	平元 /4	5	6	7	8	9	10	11	12	平2 /1	2	3	計
発掘調査	1	4	4	0	5	3	0	1	2	1	1	2	24
立合調査	1	1	1	0	4	2	1	1	5	8	6	2	32
慎重工事	0	0	0	0	2	0	1	1	2	10	0	0	16
計	2	5	5	0	11	5	2	3	9	19	7	4	72

第3表 遺跡別届出・調査件数集計 平成2年
3月15日現在

遺跡名	届出件数	① 発掘調査	② 立合調査	①+②
中垣内遺跡	18	7	2	9
北新町遺跡	8	3	2	5
寺川遺跡	3	3	1	4
寺川古墳群	3	1	0	1
三箇遺跡	10	0	1	1
北条遺跡	2	0	0	0
北条西遺跡	1	0	2	2
飯盛山城跡	0	1	1	2
福蓮寺遺跡	2	0	0	0
鍋田川遺跡	0	1	0	1
宮谷古墳群	1	1	0	1
墓谷古墳群	3	1	1	2
野崎城跡	1	1	0	1
堂山古墳群	1	0	0	0
大將軍古墳	5	0	0	0
御供田遺跡	6	0	0	0
福蓮寺遺跡	6	0	0	0
計	70	19	10	29

伴う調査)や、飛鳥～奈良時代の掘立柱建物跡を検出した寺川遺跡、古墳時代の遺構を検出した鍋田川遺跡(いずれも大阪産業大学構内で実施した、校舎建替、クラブハウス建築に伴う調査)などがある。

II 寺川遺跡、寺川古墳群の調査



第1図 寺川遺跡、寺川古墳群調査区位置図

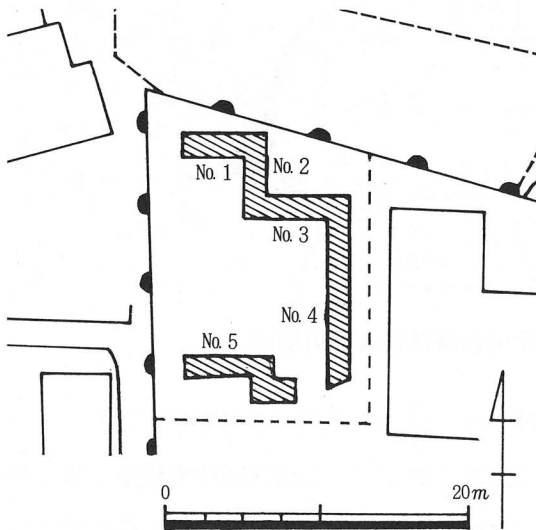
今年度寺川遺跡では5件、寺川古墳群では1件、計6件の調査を実施している。1～4区及び6区は寺川遺跡、5区が寺川古墳群の調査である。1区は共同住宅新築工事に伴う調査で、奈良時代～中世の建物跡、井戸、自然河川等を検出しており、特に自然河川からは弥生時代土器、古墳時代の土師器、須恵器、奈良時代の土師器、須恵器、瓦器等、各時代にわたる遺物が出土し、奈良時代の須恵器で「白麻呂」と書かれた墨書土器が3点出土している。2区は、大阪産業大学構内における校舎増築に伴う調査で、飛鳥、奈良時代に属すると考えられる掘立柱建物跡を検出している。3・4区の調査では、遺構は検出されなかったが、各時代の遺物を含む包含層を確認することができた。

5区の調査

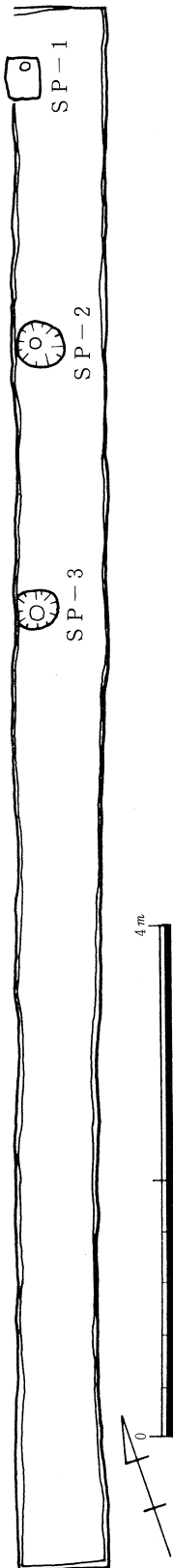
5区は、寺川古墳群内での調査である。寺川古墳群は、現在のところ大きく寺川遺跡に

第4表 寺川遺跡・寺川古墳群（TRK）調査一覧表

	所在地	面積 (m ²)	用途	調査期間	調査結果	備考
1	寺川2-523-1・515-1	867.7	共同住宅	4月13日 6月12日 ～8月29日	奈良時代～中世の建物跡、 井戸、自然河川 弥生式土器、土師器、須恵器 墨書土器、瓦器、多量の木製品 (井戸枠等)GL-100～1,500包含層	別途報告
2	中垣内3-1-1	835.0	校舎増築	5月9日 8月21日 ～9月27日	飛鳥・奈良時代の柱穴、その 他のピット、土壇 土師器、須恵器、勾玉	別途報告
3	中垣内3-1.120	834.1	寮	9月22日	遺物、遺構有り 盛土300GL-510～600包含層	設計変更により 工事着手
4	寺川2-547-1	329.0	人口地盤	10月18日	旧耕土GL-400出包含層	別途報告
5	寺川4-347-2.5の1部	446.2	個人住宅	平成2年 3月3日 ～3月17日	GL-500まで 遺構はなかったが土師器、須 恵器、弥生土器出土	本書掲載
6	寺川2-526-1.523-2	289.9	個人住宅	9月20日	遺物、遺構無し 盛土500、攪乱土500	本書掲載



第2図 トレンチ位置図 (TRK 89-5)



第3図 トレンチNo.4 盛土表土除去後の平面図 (TRK89-5)

包括された形で、埋蔵文化財分布地図に載っているが、古墳群の規模、時期等については、説明は不明である。調査地は、飯盛山より派生する尾根が、徐々に高度を下げた丘陵部の先端に位置している。調査地の東側には広い谷が形成されており、その谷とは約2m程の高低差がある。地目は畑で、調査地の現地表面は、標高約18mを測る。

従来より、遺跡の所在が明らかでなかった地点であったため、まず試掘調査を行った。試掘は、約1mの深さまで実施し、盛土、旧耕作土、オリーブ灰色土、黄灰色砂質土の堆積が認められ、遺構は検出されなかったが、須恵器片、土師器片等の遺物が出土した。協議の結果、住宅の基礎部分についてトレンチを設定し、GL-50cmまでを対象として、発掘調査を実施した。

トレンチNO.1、NO.2、NO.3

敷地の北側に設定したトレンチである。NO.1とNO.3が東西方向、NO.2が南北方向である。土層の堆積状況は、盛土、旧耕作土、オリーブ褐色砂混じり土の順に堆積している。さらにその下層には、暗灰色砂混じり土が見られるが、上の層に比べると固くしまっている。遺物が出土するのは主にオリーブ褐色砂混じり土で、土師器、須恵器などがあるが、いずれも小片である。

トレンチNO.4

敷地の東側に設定した南北方向のトレンチである。土層は、1部に若干の盛土が見られるが、基本的には旧耕作土とオリーブ褐色砂混じり土の2層である。ここでは、旧耕作土を除去した時点で、南北方向に並ぶピットを3個検出している。ピットの掘り形は、SP-1が方形、SP-2、SP-3が円形で、埋土は旧耕作土と同系色であった。すべてのピットには、柱根が残存していた。柱根の深さは、検出面から約5cmと浅く、太さは、径10cm程度であった。柱間の寸法は約2mの等間である。遺物は、オリーブ褐色砂混じり土から、土師器、須恵器の木片

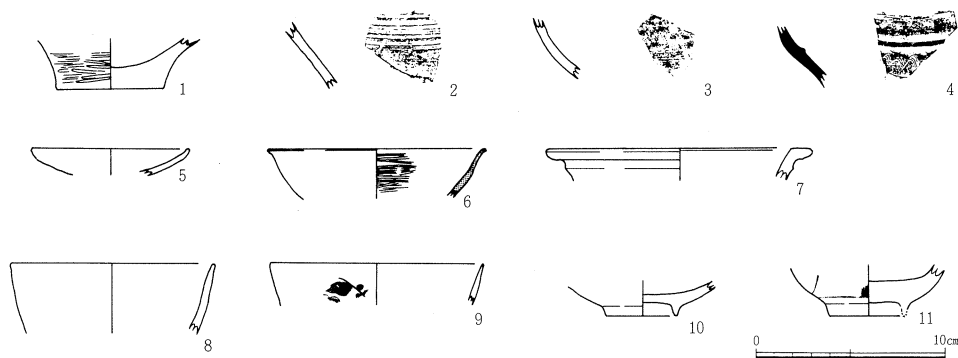
が出土している。

トレンチNO.5

敷地の南側に設定した、東西方向及び南北方向のトレンチである。土層は盛土が見られず、他のトレンチと同様、旧耕作土、オリーブ褐色砂混じり土より成る。遺構は検出されなかったが、やはり、オリーブ褐色砂混じり土から、弥生土器、須恵器、土師器の小片が出土している。

遺物

遺物は、オリーブ褐色砂混じり土から各時代にわたる土器が出土しているが、いずれも小片で、図化し得たものは、1部にすぎない。1～3は弥生土器である。1は底部で、外面にヘラミガキが施されている。2、3は体部の破片で、磨耗が激しいが、外面に櫛描き文が施されているのが認められる。中期に属するものであろう。4は須恵器で、器種は不明であるが、稜の上部に波状文が施されている。5は、土師器の皿、6は、瓦器碗である。いずれも小片で磨耗が激しい。7は、陶質の鉢の口縁部、8～11は、伊万里の染付碗である。

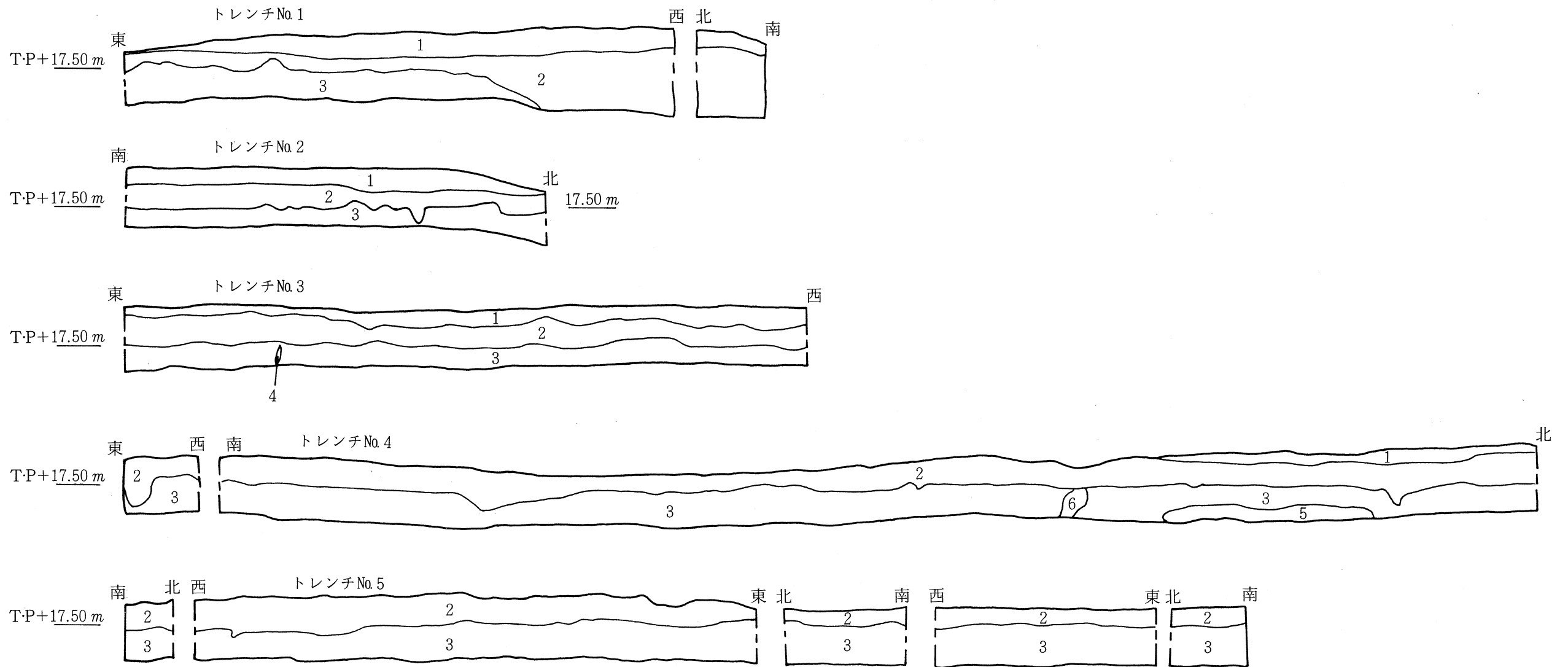


第4図 出土遺物実測図 (TRK 89-5)

小 結

調査の結果、遺構は、トレンチNO.4で検出したピットのみであるが、時期を決定づける遺物も出土しておらず、また、柱根の残りが良すぎることに、埋土が耕作土と同じということを考え合わせると、古い時期のものとは考えられず、近現代のものと考えた方が良さそうである。

今回、調査を実施した地点は、従来より後期の前方後円墳と伝えられる十林寺古墳⁽¹⁾と同一尾根上の西端部にあたる。この尾根は、飯盛山から西へ張り出して、麓で急に高度を



- 1 オリーブ褐色砂混じり土 (表土) (2.5 Y $\frac{4}{4}$)
- 2 オリーブ黒色砂混じり土 (耕作土) (5 Y $\frac{3}{2}$)
- 3 オリーブ褐色砂混じり土 (2.5 Y $\frac{4}{3}$)
- 4 暗褐色砂混じり土 (10 Y R $\frac{3}{3}$)
- 5 暗褐色砂混じり土 (7.5 Y R $\frac{3}{3}$)
- 6 黒褐色砂混じり土 (2.5 Y $\frac{3}{1}$)



第5図 トレンチNo. 1～No. 5 土層断面図 (TRK89-5)

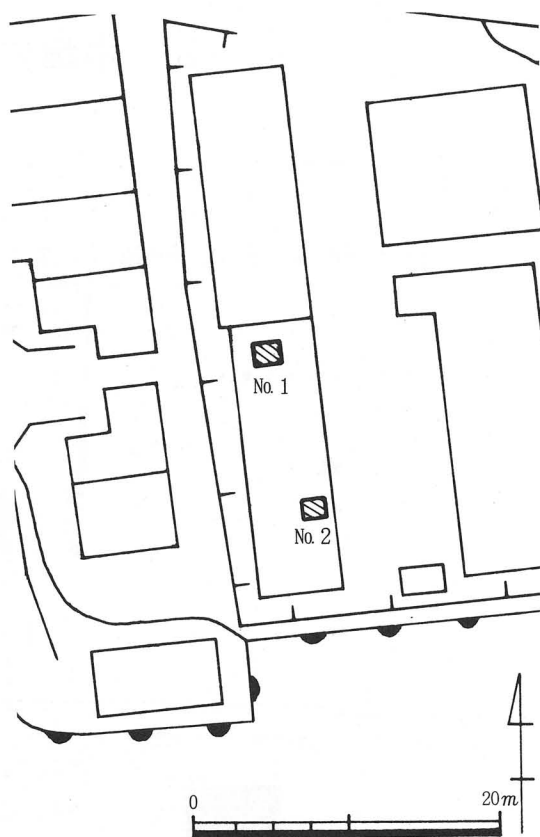
を下げるが、その後標高20~30mの高度を保ちながら、西に向かって約300m程の長さで低い丘陵地形を形成している。古墳を造る立地条件としては、申し分のない地形と考えられる。そのため当初は、古墳の存在が予測されたのであるが、調査ではそのような状況は、見受けられなかった。ただ、出土遺物から推測すると、副葬品に使用される須恵器類が出土していること、また、表採できることなどから、古墳が存在したことは十分に考えられる。また、オリブ褐色砂混じり土からは、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器等の各時代の遺物の小片が含まれていることから、後世の削平による影響をかなり受けているものと考えられ、それによって消滅したことが考えられる。

6区の調査

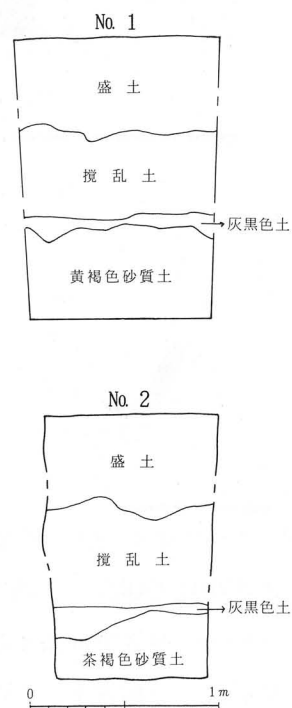
6区は、寺川遺跡での調査である。個人専用住宅建設予定地に、トレンチを2箇所設定して、基礎の掘削深度であるGL-1.5mまでを対象として、発掘調査を実施した。調査の結果、層序は、GL-1mまで、盛土と攪乱土が堆積し、その下に約10cmの厚さで、灰黒色を呈する旧耕作土の堆積が認められた。その下には、黄褐色、茶褐色の砂質土が堆積するが、遺物は含まれていない。約30m東で実施した1区の調査では、大量の遺構、遺物が検出されているのとは、対照的な状況であった。

小 結

1~4区までは、半径150mの範囲内にあり、特徴としては、古墳時代終り頃から奈良時代、そして中世の遺構⁽²⁾が多いということであろう。遺構の性格は未だ不明な点が多いが、寺川遺跡を考えるうえで貴重な資料を得ることができたと、考えている。

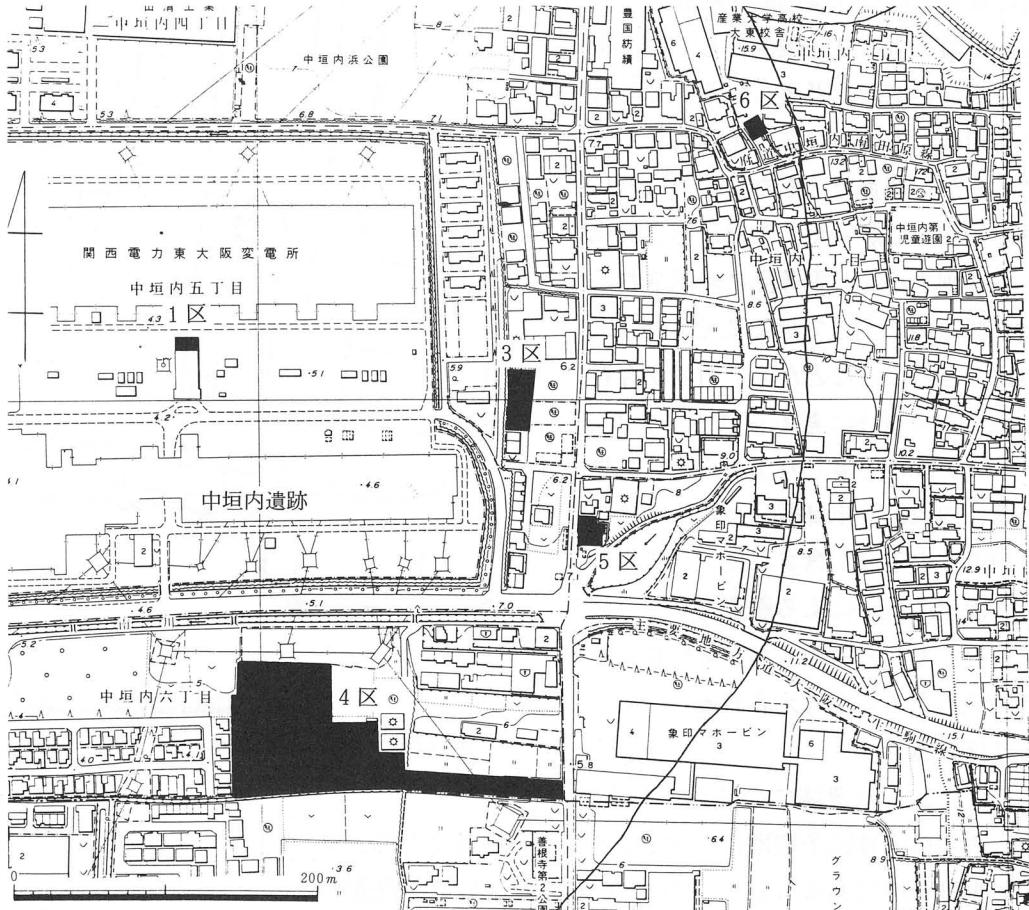


第6図 トレンチ位置図 (TRK89-6)

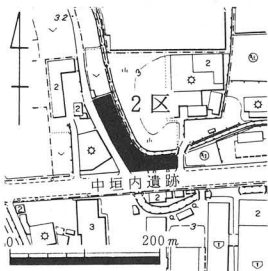


第7図 土層断面図 (TRK89-6)

Ⅲ 中垣内遺跡の調査



第8図 中垣内遺跡調査区位置図



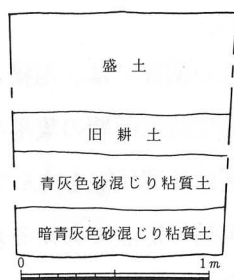
第9図 中垣内遺跡調査区位置図 5区は、変電所敷地から東へ約60mの距離に位置している。個人専用住宅建設予定地にトレンチを1箇所設定して、事前の発掘調査を実施した。層序は、約50cmの厚さで堆積する盛土の下に、灰黒色の旧耕作土が認められた。その下には、青灰色砂混じり粘質土、暗青灰色砂混じり粘質土が堆積していたが、遺物は含まれていなかった。

5区の調査

今年度、中垣内遺跡では、合計5箇所の調査を実施した。中垣内遺跡は、これまで実施した調査で、関西電力株式会社東大阪変電所敷地内では弥生時代前期の集落跡が、そして、大阪産業大学構内では古墳時代前期の集落跡が発見されている。

個人専用住宅建設予定地にトレンチを1箇所設定して、事前の発掘調査を実施した。層序は、約50cmの厚さで堆積する盛土の下に、灰黒色の旧耕作土が認められた。その下には、青灰色砂混じり粘質土、暗青灰色砂混じり粘質土が堆積していたが、遺物は含まれていなかった。

第5表 中垣内遺跡（NGT）調査一覧表						
	所在地	面積（㎡）	用途	調査期間	調査結果	備考
1	中垣内5-3-1 （東大阪変電所敷地内）	178.5	建物増築	8月1日 ～8月19日	弥生前期の柱穴、自然流路の溝 弥生土器、サヌカイト剥片、木製品	別途報告
2	中垣内7-235-1	839.0	事務所倉庫	4月7日	遺物・遺構無し、盛土	
3	中垣内5-579-1・5・6	828.1	共同住宅	5月19日	遺物・遺構無し	
4	中垣内6-136-1他	8,393.8	倉庫	6月13日	GL-2mで古墳時代の遺物 包含層	
5	中垣内1-319-7	181.2	個人住宅	9月16日	遺物・遺構無し 盛土500、田耕土300	本書掲載
6	中垣内3-930-2	193.38	個人住宅	平成2年 2月21日	遺構無し、遺物包含層確認	本書掲載

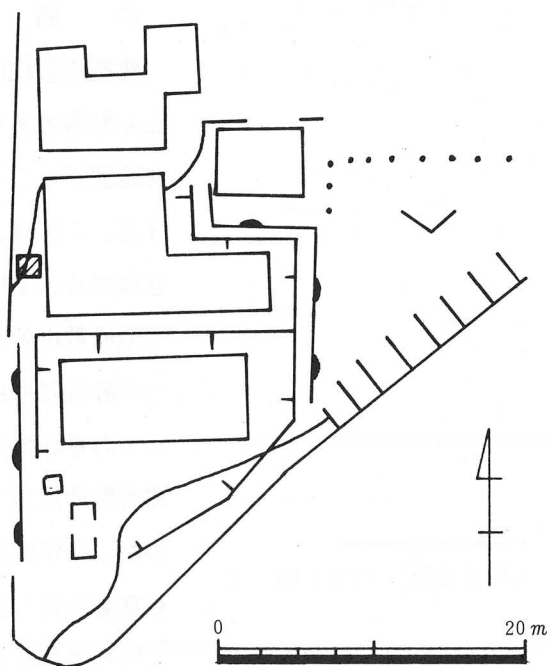


第10図 土層断面図（NGT89-5）

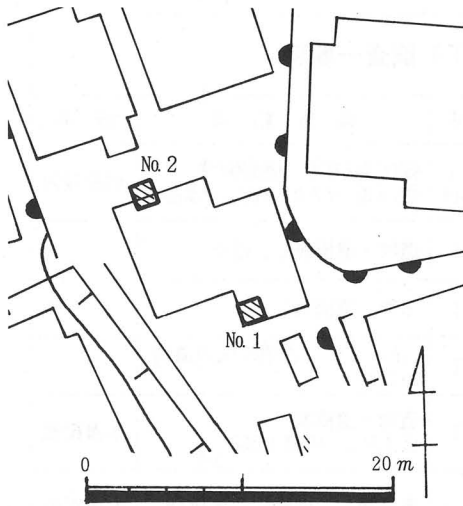
た。ここでの層序は、3区での調査の層序と一致するが、変電所敷地内で弥生時代の遺物包含層が存在するのは、対照的な状況である。現在のところ、変電所敷地の東側では、弥生時代の遺構は見つかっていない。

6区の調査

6区は、中垣内遺跡の東端、標高約10mの丘陵端に位置している。個人専用住宅建設予定地にトレンチを2箇所設定し、基礎の掘削深度であるGL-1.0mまでを対象として発掘調査を実施した。



第11図 トレンチ位置図（NGT89-5）



第12図 トレンチ位置図 (NGT89-6)

層 序

盛土を除去すると、トレンチNO.1では黄褐色砂混じり土、トレンチNO.2では黄灰色砂質土が堆積していた。いずれも東から西への傾斜が認められ、現在の地形と一致する。遺構は、検出されなかった。

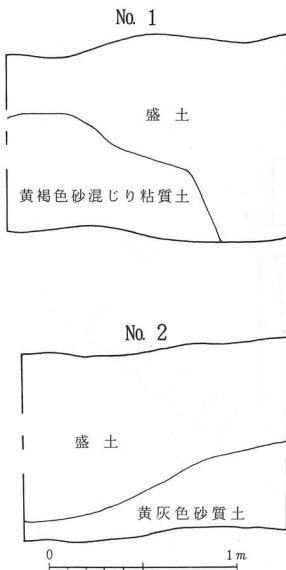
遺 物

黄褐色砂混じり粘質土、黄灰色砂質土から、土師器、須恵器、磁器が出土しているが、小片である。図化し得たのは、2点である。1、2とも土師質で、内外面とも丁寧にナデている。器種は鉢であろう。

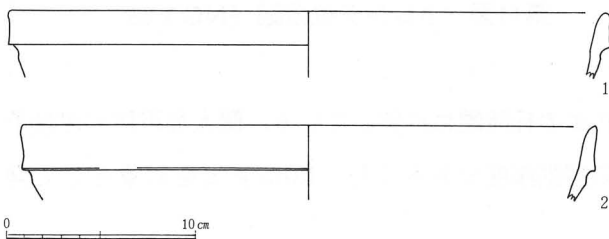
小 結

変電所敷地内で実施した1区の調査では、遺構、遺物とも希薄であったが、やはり弥生時代前期の集落の存在を確認することができた。2区は外環状線を挟んで西側、3区、5区は、変電所のすぐ東側の地点にあたるが、残念ながら、遺構、遺物とも検出することはできなかった。変電所敷地の南東で実施した4区の調査では、GL-2mの砂混じり粘質土から、古墳時代前期の土師器が出土しており、集落の存在が予想される場所であるが、変電所敷地以外で、集落がどのような範囲で存在しているのか、今年度は明らかにすることはできなかった。今後とも立会調査も含めた調査を綿密に行い、集落の範囲確認に努めて行きたいと思っている。(なお、4区では、本

調査を平成2年9月から実施する予定である。)



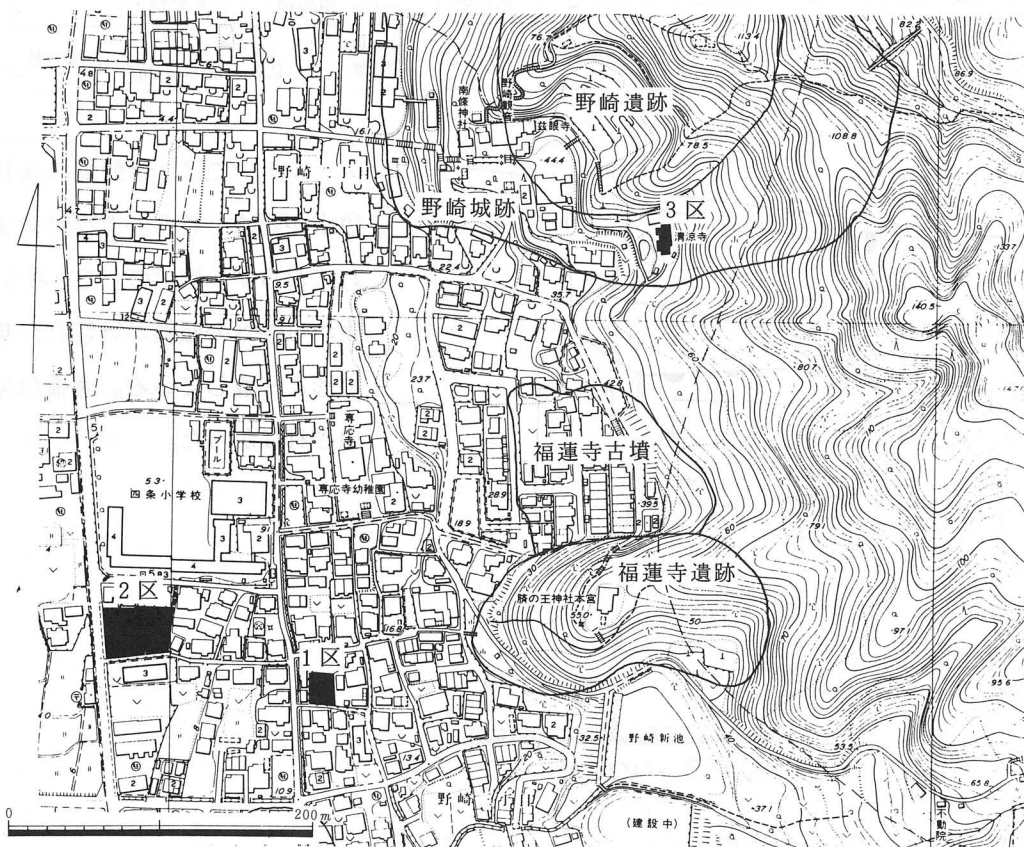
第13図 土層断面図 (NGT89-6)



第14図 出土遺物実測図 (NGT89-6)

IV 野崎条里遺跡、野崎城跡の調査

野崎条里遺跡は、今年度実施した試掘調査の結果、新規に発見された遺跡である。1区の調査では、遺構こそ検出されなかったが、須恵器片、土師器片、瓦器片等が含まれる遺



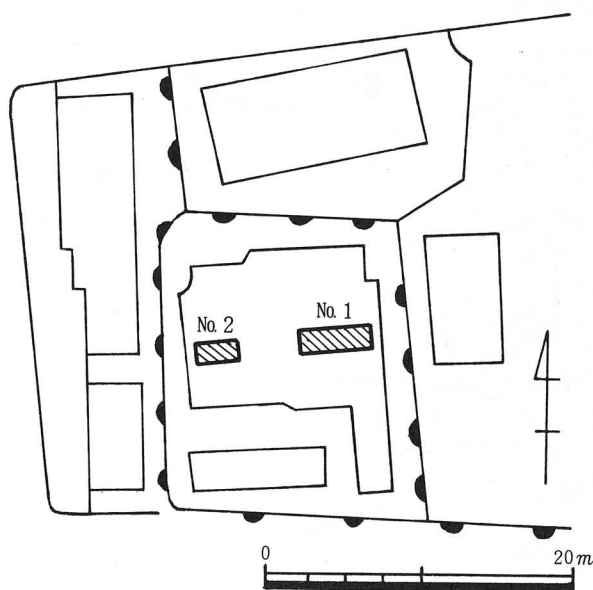
第15図 野崎条里遺跡・野崎城跡調査区位置図

物包含層を確認することができた。また、2区の調査では、ピットが検出され、飛鳥～奈良時代の須恵器、土師器、瓦器が出土している。当地は、讃良郡条里の三条にあたる地域で、「六」、「壺」などの坪名と考えられる地名が残っている⁽³⁾。3区は、野崎城跡で実施した調査である。

1区の調査

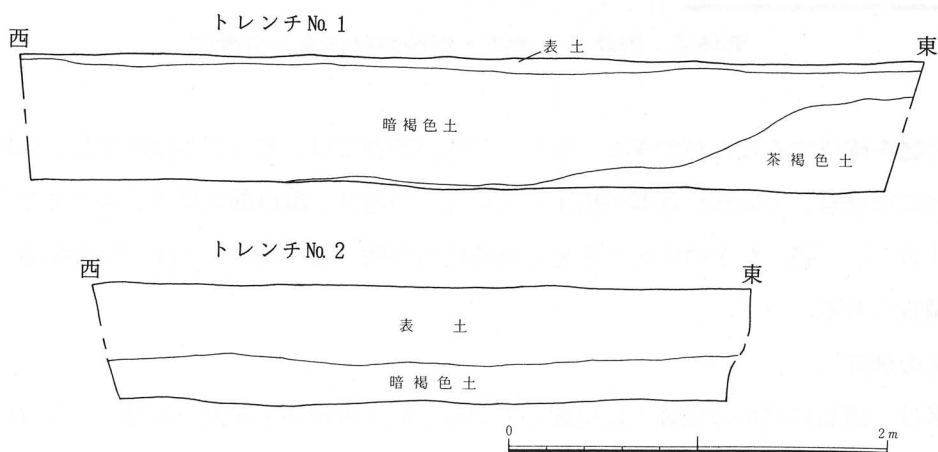
1区は、標高約15mの丘陵上に位置している。個人専用住宅建設予定地に、2箇所の特レンチを設定して、基礎の掘削深度であるGL-60cmまでを対象として、発掘調査を実施した。表土を除去すると、須恵器、土師器、瓦器が含まれる暗褐色土を堆積するが、トレ

第6表 野崎城跡 (NOZ) 調査一覧表						
	所在地	面積 (㎡)	用途	調査期間	調査結果	備考
1	野崎3-402-1	135.3	個人住宅	4月5日	須恵器、土師器等遺物包含層 須恵器、土師器	新規発見の遺跡・本書掲載
2	野崎3丁目177-5、177-6	885.35	共同住宅	9月26日	瓦器、須恵器、ピットを検出	
3	野崎2-814	1,117.0	住宅(庫裡)	2月13日	1m角のトレンチ5ヶ所 遺構無し、瓦、瓦器、須恵器片少量	本書掲載



第16図 トレンチ位置図 (NOZ 89-1)

ンチNO.1では、岩盤質の茶褐色土が認められる。遺物は含まれておらず、地山の土であろう。東から西への傾斜が見られ、現地地形と一致している。遺構は検出されなかった。



第17図 土層断面図

3区の調査

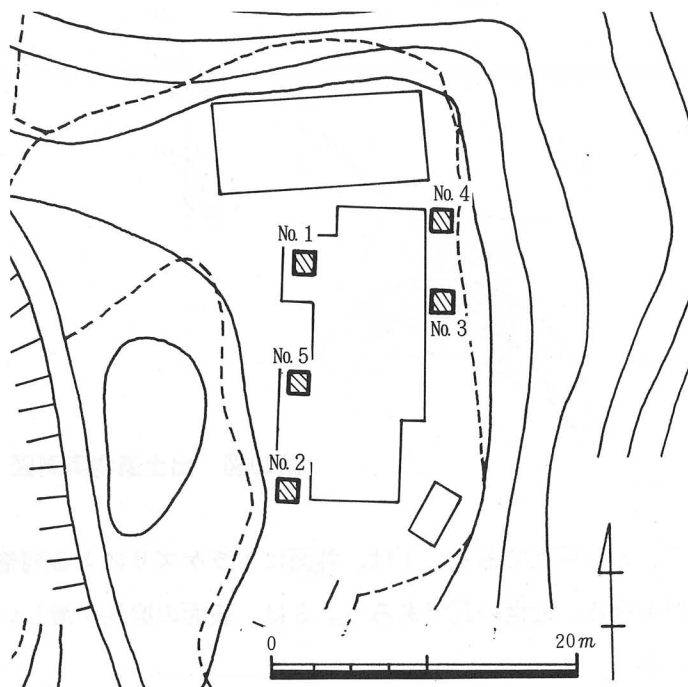
調査地は、野崎観音のある尾根の南側の谷筋にあたり、標高は約 m、東から西への傾斜地である。住宅（庫裡）建替工事に先立って、5箇所のトレンチを設定して、発掘調査を実施した。現状の地形は、既存の建物を建てる際に、かなり切り土がなされたようである。

層序

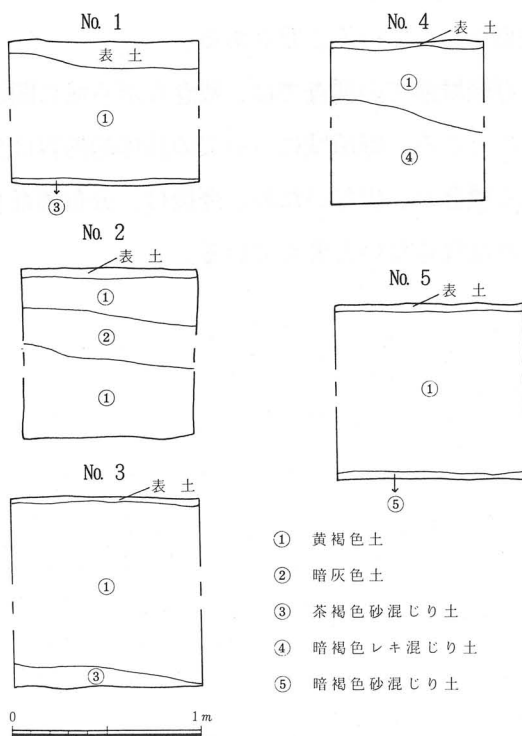
トレンチNO.3、NO.4が斜面上部、NO.1、NO.2、NO.5が斜面下部での調査である。表土を除去した時点で黄褐色土が表われるが、トレンチの場所によっては、堆積の厚さに違いが見られる。まったくしまりのない土で、既存の建物建設時に、斜面上部の土を削り、下方へ押した土であろう。トレンチNO.1、NO.3、NO.5では、さらにその下に茶褐色砂混じり土があるが、岩盤質で固くしまっており、地山の土と考えられる。

遺物

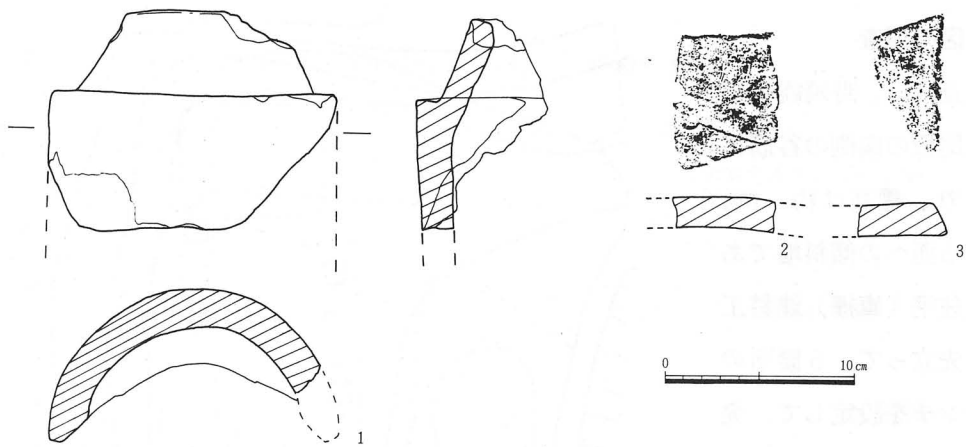
遺物は、黄褐色土から瓦、土師器、須恵器片が出土している。図化し得たのは瓦片のみである。1は丸瓦、



第18図 トレンチ位置図 (NOZ89-3)



第19図 土層断面図



第20図 出土遺物実測図

2、3は平瓦である。1は、外面にヘラケズリによる調整とナデが施され、内面には、布目が残る。近世の瓦であろう。3は、表面の磨耗が激しいが、2は、指でナデた跡が残る。

小 結

今年度実施した調査では、1区、2区での調査で、新たに遺跡が発見されたことが、大きな成果である。今後、野崎条里遺跡として、この付近一帯の土木工事、住宅建設工事に注意を払って行く必要がある。

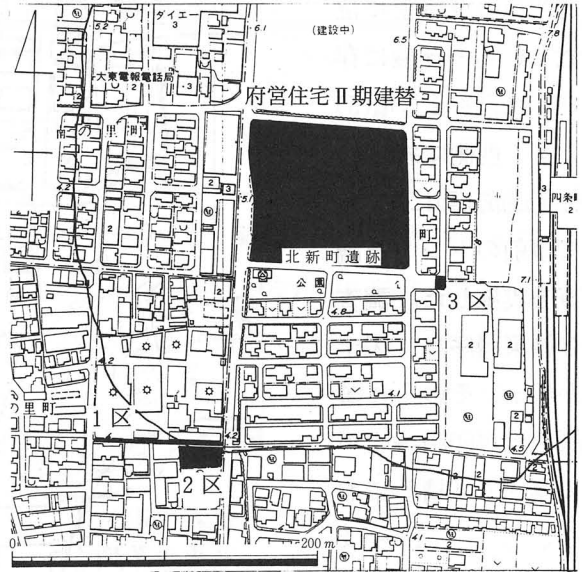
野崎城跡での調査では、残念ながら城に関連する遺構は、検出することはできなかった。今のところ、野崎城についての具体的内容は全く不明である。当地では、発掘調査を実施する機会が、少ないため、今後は、分布調査も含めて、野崎城跡の解明に努力して行かなければならないと考えている。

V その他の調査

本年度は、先に紹介した以外の遺跡においても、発掘調査を実施しているが、補助金の対象となる調査は実施しておらず、ここでは、各遺跡の調査状況について、簡単に説明しておく。

北新町遺跡

北新町遺跡では、4件の調査を実施している。昨年度に引き続き、遺跡調査会の実施する府営住宅建替に伴う調査が行われ、古墳時代前期の水田跡、集落、鎌倉時代の



第21図 北新町遺跡調査位置図

第7表 北新町遺跡（KSM）調査一覧表

	所在地	面積 (㎡)	用途	調査期間	調査結果	備考
1	北新町(下水)道路	75.6	道路	4月3・4日	溝、土師器、須恵器小片	別途報告
2	中楠の里町386-1	446.4	共同住宅	4月12日 5月27日 ～7月27日	中世の掘立柱穴、水田址 弥生式土器、土師器、須恵器 瓦器、陶磁器	別途報告
3	北新町13番地	22.5	水路切替 立坑2ヶ所築造	12月19日 ～26日	古墳時代水田址、近世坪墳溝 土師器、陶磁器	別途報告
	北新町地内	1,200.0	府営北新町 第2期建替 住宅 住宅周辺 (埋設構造物) 調査	4月～12月	古墳時代の水田址、河川址、集落跡 中世前半の建物集落、館跡 近世区画された畑：水田址・河川址 縄文式土器、石器、弥生式土器、 石器 古墳時代土師器・須恵器 木器-古墳時代くり舟(2/8記者 発表)	北新町遺跡 調査会実施 別途報告

建物跡等が検出されているが、今年度の成果で特に注目すべきは、井戸枠に転用されていた、割り船の一部や、他の地方から運ばれてきたと考えられる前期古墳の竪穴式石室に使用される石材が出土したことである。(4)これらの出土遺物は、北新町遺跡の性格を考えるうえで大変貴重な発見である。

その他の調査は、府営住宅敷地の周辺で実施されており、ここでも府営住宅での調査結果と同様の遺構の広がりが見られた。特に、1区の調査では、遺跡がさらに西へ広がる調査結果が得られている。

宮谷古墳群

調査地点は、標高約40mの丘陵上に位置し、同一丘陵に存在した宮谷1号墳(5)のすぐ西側にあたる。住宅造成工事に先立って事前のトレンチ調査を実施した。調査の結果層序は、表土が40cm、その下に黄灰色土が60cm～1mの厚さで堆積しており、GL-1～1.5mで地山であるカコウ岩質の土を検出した。遺物は、須恵器片、埴輪片が極く少



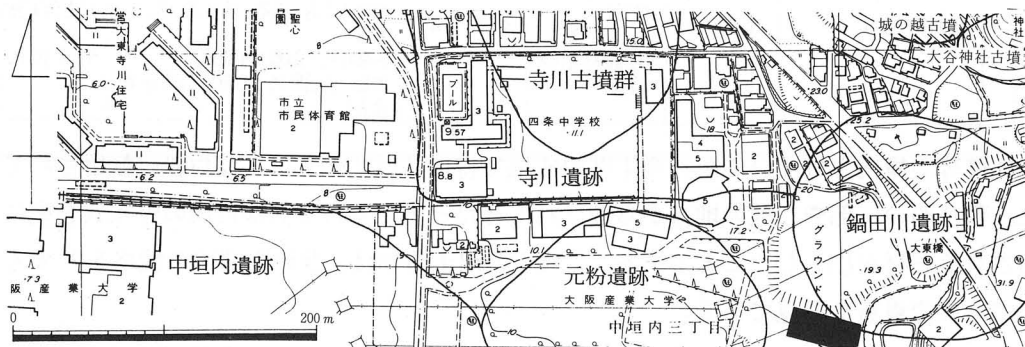
第22図 宮谷古墳群調査区位置図

第8表 宮谷古墳群 (MTN) 調査一覧表

	所在地	面積 (m ²)	用途	調査期間	調査結果	備考
1	北条6-1505他	990.0	宅地造成	11月1日	表土GL-400、地山までGL-1,000～1,500 埴輪・須恵器片、遺構無し	

少量出土しているが、古墳、その他の遺構は、検出していない。

鍋田川遺跡



第23図 鍋田川遺跡調査区位置図

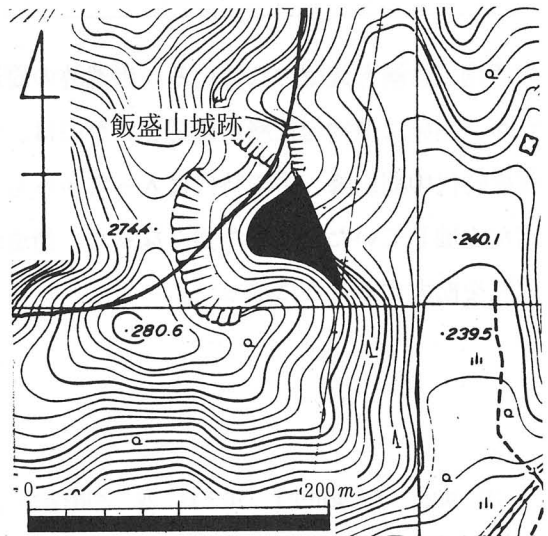
鍋田川遺跡は、昭和33年に行われた鍋田川の河川改修工事に発見された遺跡である。

第9表 鍋田川遺跡（NBT）調査一覧表						
	所在地	面積（㎡）	用途	調査期間	調査結果	備考
1	中垣内3-1-1	644.0	大学、クラブハウスの建設	5月9日 8月21日 ～10月21日	古墳～奈良平安時代のピット 古墳前期の土師器、須恵器が主に出土、韓式系土器、製塩土器、瓦器片	別途報告

古墳時代前期の土師器が大量に出土し、滑石製有孔円板、ト骨、刻骨なども出土している。特に土師器には、高杯が大量に含まれており、有孔円板や、ト骨、刻骨の出土を考え合わせると、祭祀的な色彩の濃い遺跡である。⁽⁶⁾今年度の調査は、鍋田川のすぐ西側にあたる、大阪産業大学構内において実施した。調査の結果、古墳時代～奈良平安時代のピットや土坑が検出され、古墳時代前期の土師器、須恵器、韓式系土器、製塩土器等が出土している。河川改修工事の際のように、大量の高杯は出土しなかったが、同時期に属する遺構と考えられる。

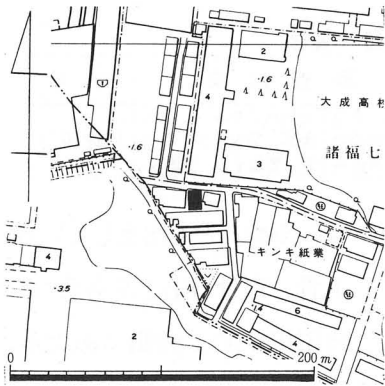
飯盛山城跡

昨年度に引き続き、グラウンド造成に先立つ調査を実施した。調査地点は、昨年度、瓦質土器、須恵器、石鏃を出土した場所のすぐ西側にあたるが、今年度は、遺構、遺物とも検出されなかった。



第24図 飯盛山城跡位置図

第10表 飯盛山城跡（IMO）調査一覧表						
	所在地	面積（㎡）	用途	調査期間	調査結果	備考
1	龍間1842-2他17筆	15,933	野球グラウンド	8月21日 ～9月1日	遺構、遺物無し	別途報告



第25図 西諸福遺跡位置図

西諸福遺跡

西諸福遺跡は、昭和32年に松下電器株式会社工場建設の際、南側の水路の掘削工事中に弥生時代中期の土器が出土して発見された⁽⁷⁾。今回の調査地点は、その水路から南西へ約200mの距離に位置している。周知の埋蔵文化包蔵地には該当しない場所であったが、遺跡の周辺地域であったため、試掘調査を実施した。その結果、GL-2.2mから古墳時代の須恵器の壺が、ほぼ1個体出土している。また、同時代

第11表 西諸福遺跡（MOR）調査一覧表

	所在地	面積 (㎡)	用途	調査期間	調査結果	備考
1	諸福6-364-6、8	139.0	共同住宅	6月6日	遺構不明・GL-1.800より遺物が出土、古墳時代の須恵器片、土師器加工の跡のある木片多数	設計変更により工事着手

の遺物包含層も確認されている。当遺跡の周辺では、これまで度々試掘調査を実施してきたが、明確に遺物包含層が確認されたのは、今回が初めてのことである。このことから、弥生時代中期以降、古墳時代に入ってから、当地においては、河内潟、河内湖周辺に集落が立地していた可能性が強くなった。当遺跡では、試掘調査の結果に基づいて、遺跡の範囲を拡大することになった。

註

- (1) 東宏 『大東市史』「第1章 四 古墳時代」大東市教育委員会（1973）
- (2) 三宅正浩、黒田淳他 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会（1987）
- (3) 浄謙俊文 『大東市史』「第2章 三 条里制」大東市教育委員会（1973）
- (4) 大阪府教育委員会松岡良憲氏の御教示による。
- (5) 昭和62年の調査で発見された。円筒埴輪や形象埴輪が出土している。
- (6) (1)と同じ。
- (7) (1)と同じ。「第1章 三 弥生時代」
三宅正浩、黒田淳他 『寺川・北条遺跡調査報告書』付載 三好孝一「西諸福遺跡出土・採集遺物」
大東市教育委員会（1987）

版 图

丁巳仲夏 于 湖上

丁巳仲夏 于 湖上



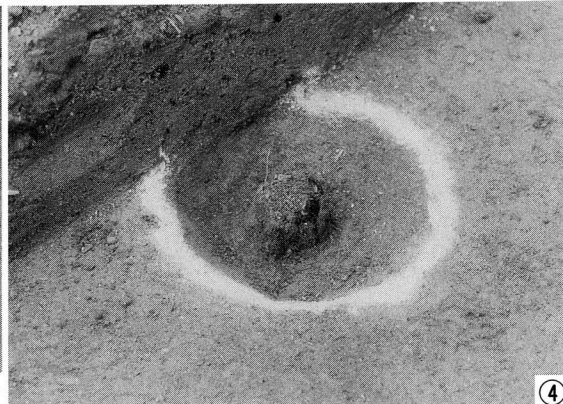
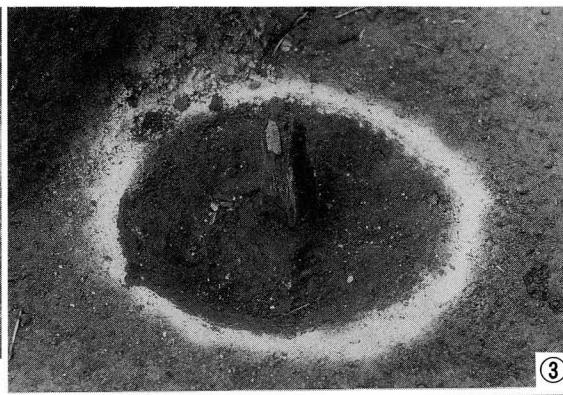
TRK 89 - 5 調査前



TRK 89 - 5 調査状況



TRK 89 - 5 トレンチNo. 4 ピット検出状況



1. トレンチNo. 4 ピット検出状況
2. SP-1

3. SP-2
4. SP-3



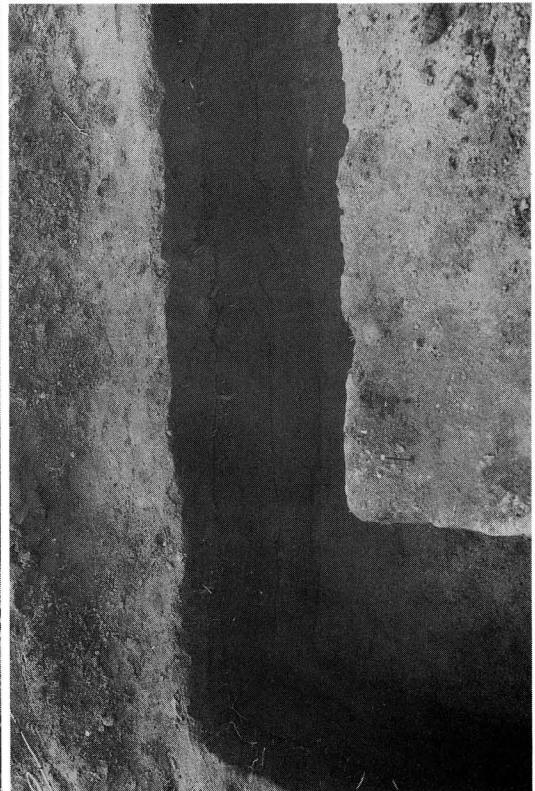
TRK 89 - 5 トレンチNo. 1 最終面



TRK 89 - 5 トレンチNo. 1 断面



TRK 89 - 5 トレンチNo. 2 最終面



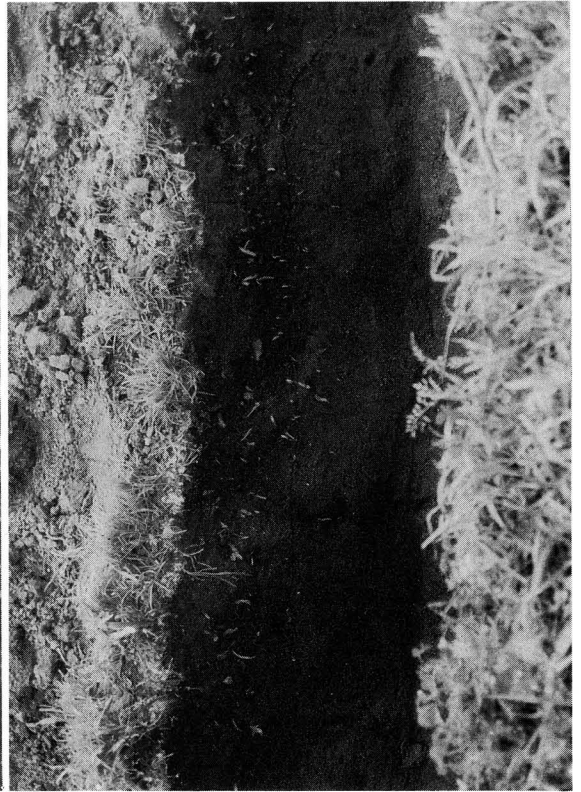
TRK 89 - 5 トレンチNo. 2 断面



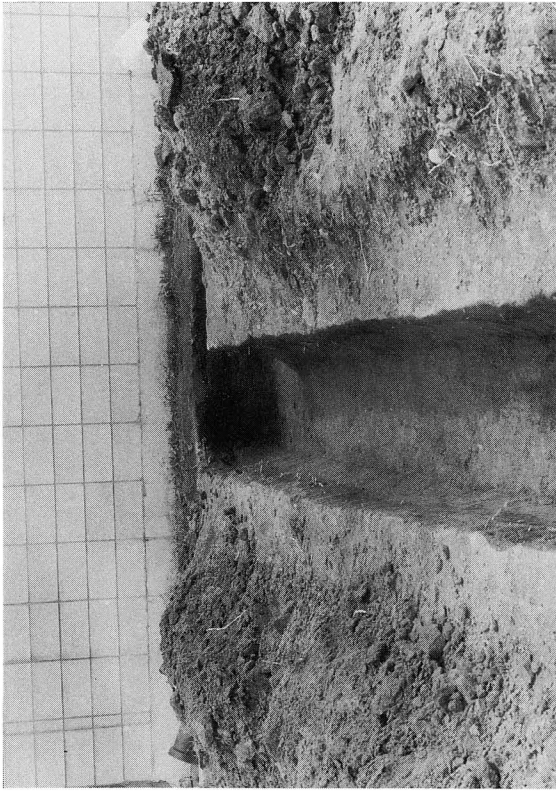
TRK 89 - 5 トレンチNo. 4 最終面



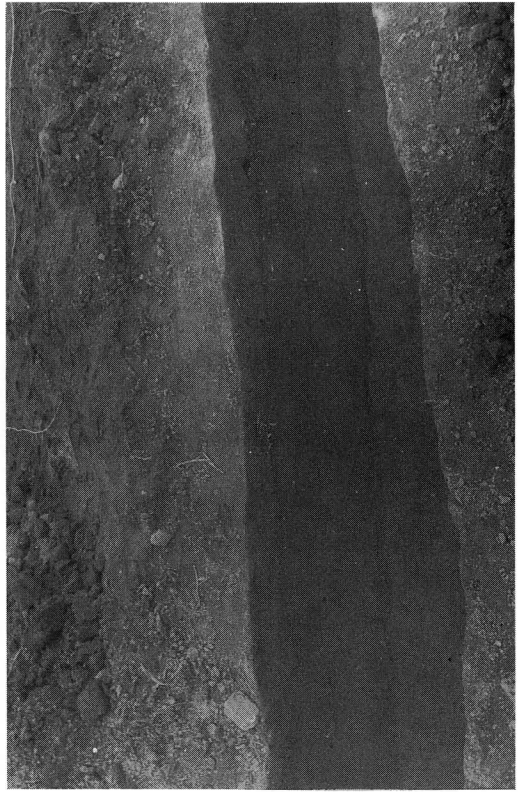
TRK 89 - 5 トレンチNo. 4 断面



TRK 89 - 5 トレンチNo. 4 断面



TRK 89 - 5 トレンチNo. 3 最終面



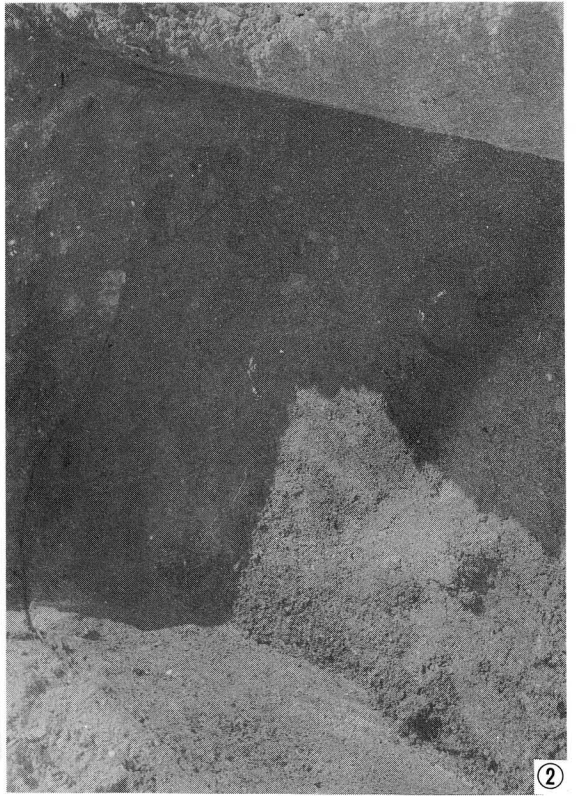
TRK 89 - 5 トレンチNo. 3 断面



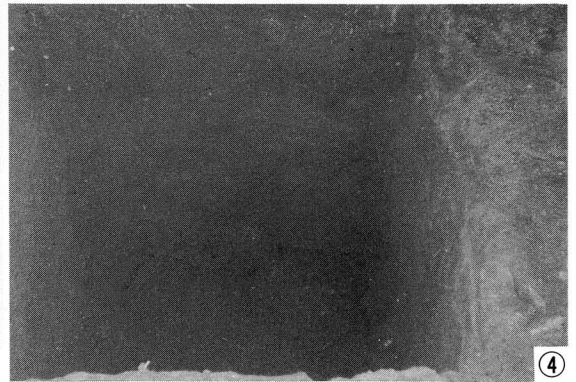
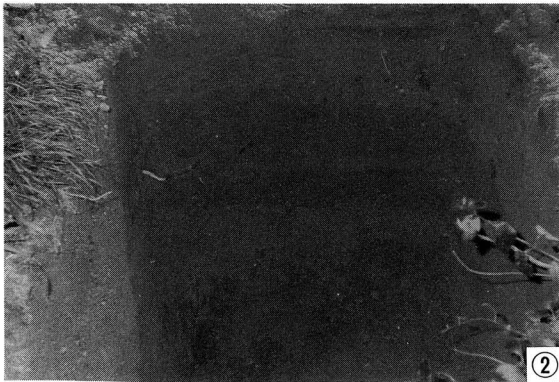
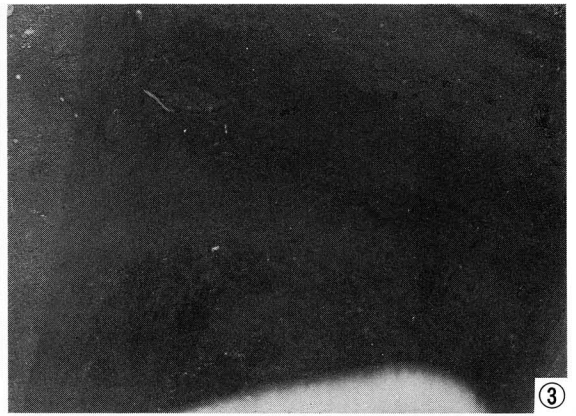
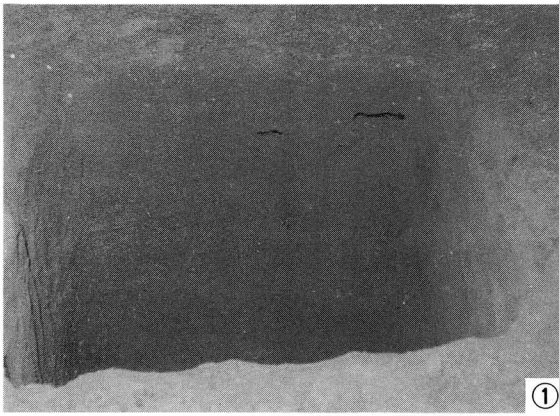
TRK 89 - 5 トレンチNo. 5 最終面



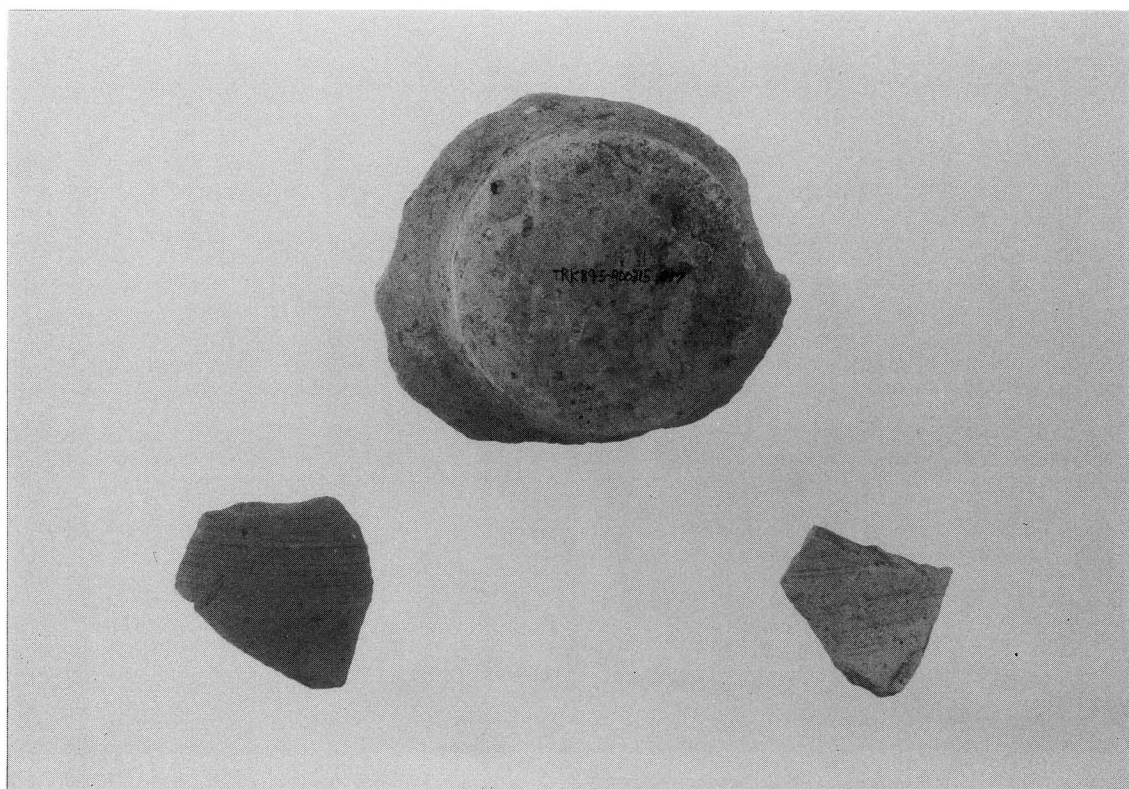
TRK 89 - 5 トレンチNo. 5 断面



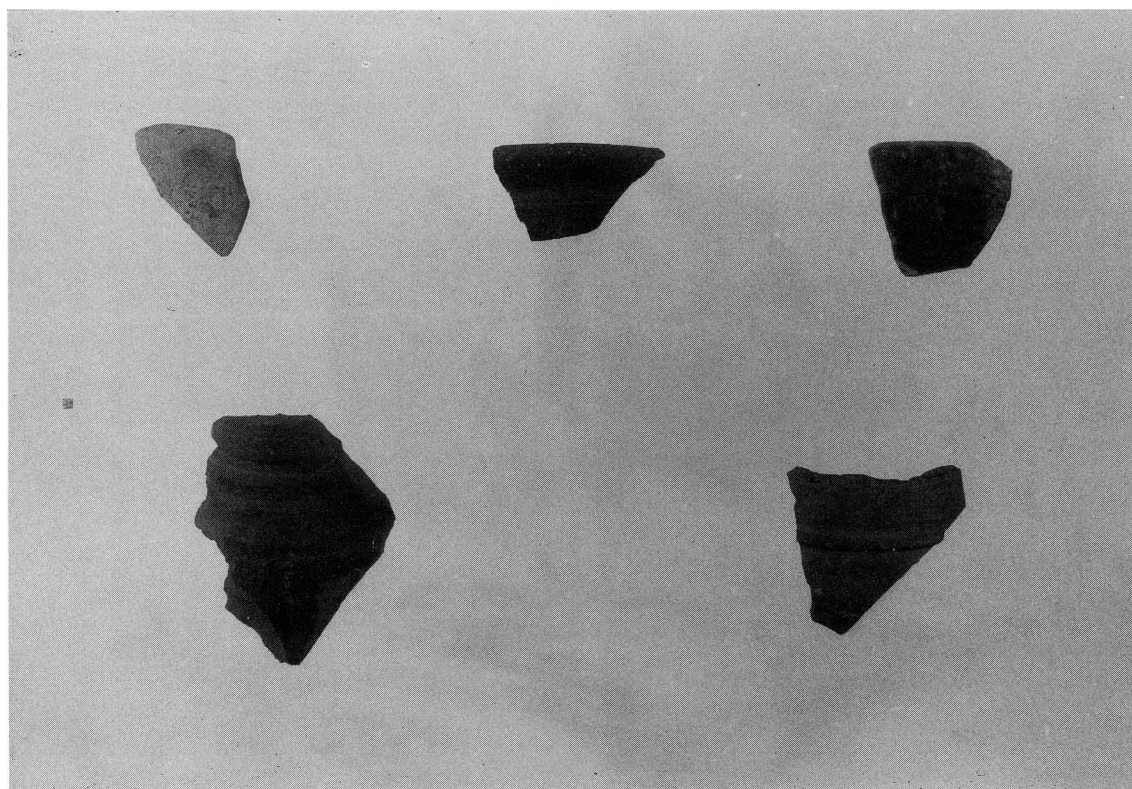
1・2 NGT89-6



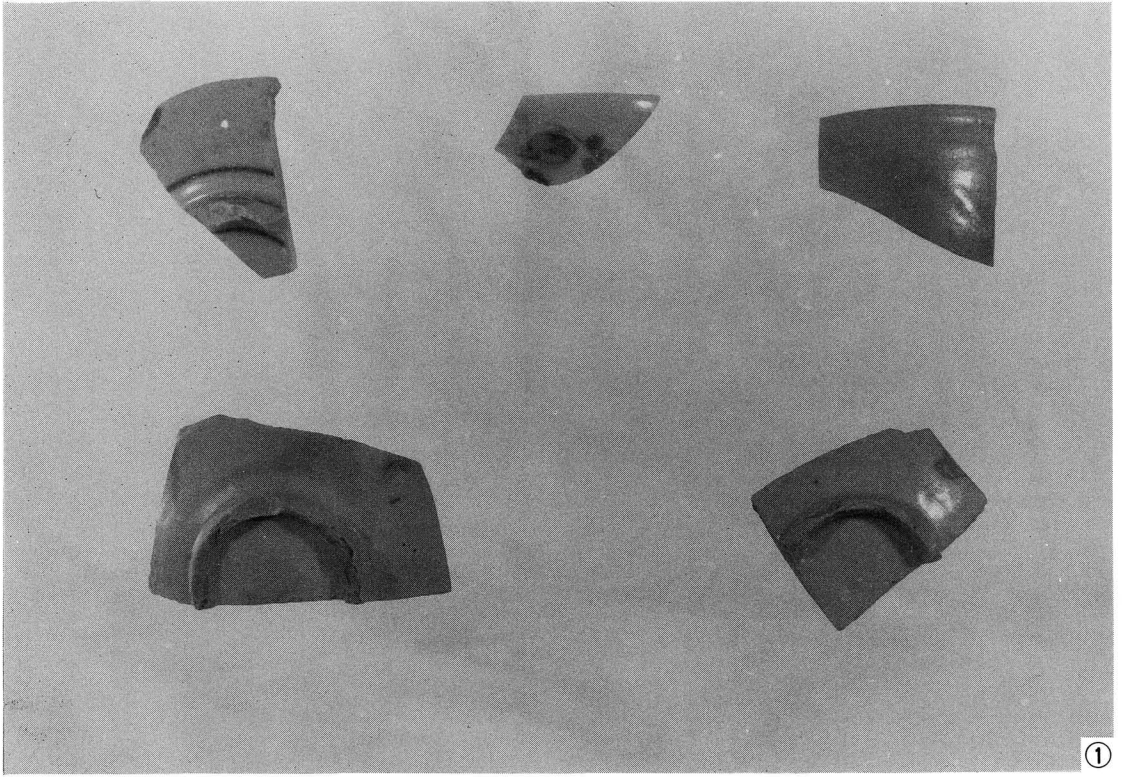
1~4 NOZ89-3



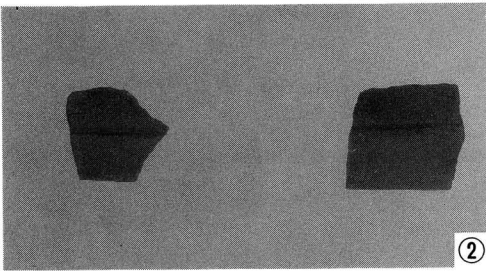
TRK 89 - 5



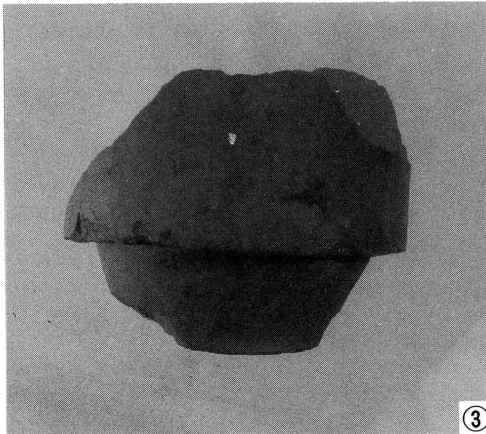
TRK 89 - 5



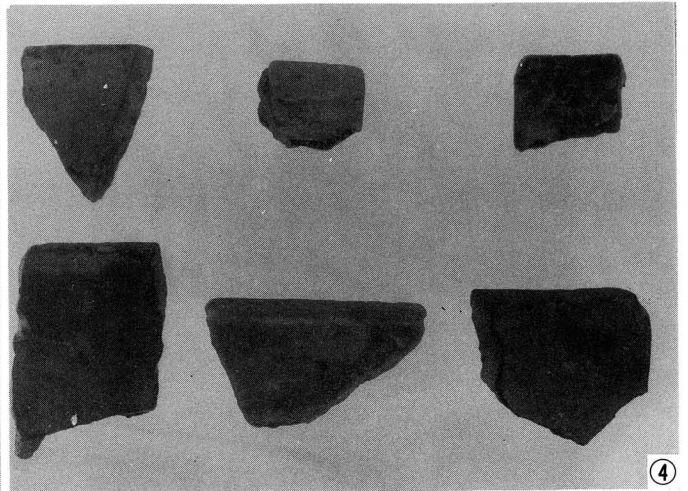
①



②



③



④

1. TRK 89-5 3. NOZ 89-3
2. NGT 89-6 4. NOZ 89-3

